

## にかほ市生涯学習・社会教育計画（案）に対する意見と市の考え方

実施期間 令和4年11月15日（火）から令和4年12月14日（水）まで

実施結果 5件（2人） ※いただいたご意見については、要約させていただきます。

No.	意見の内容	市の考え方
①	<p>&lt;基本方針 1 生涯各期における学習の推進&gt;                      少年教育、青年教育について、これからの時代を担う者として、文科省型の「知識の習得」に加えて、たくましく生きるための「知恵の習得」が必要です。その方策のひとつとして、「生きるためのお金のお話し（仮称）」（なるべく早期に、必ずお世話になる年金・保険教育、詐欺被害防止方法等々）の出前講座の実施です。これも、専門家の講義だけではなくて、例えば仁賀保高校ボランティア活動グループに伝授して、高校生が小中学生に伝達するなどの方法がより効果的だと考えます。</p>	<p>→ 少年教育、青年教育（第4次計画では「青少年教育」に統合）については4つの重点推進目標を掲げ、取り組みます。重点推進目標のひとつである 3) 郷土への理解を深め郷土愛を育む では、地域の教育資源や人材を活用したふるさと学習や地域学を通じて、青少年がよりよく生きるための基礎となる力の醸成を目的としております。また、よりよく生きるための力を土台とし、応用、発展させる力の習得を理想としております。ご提案あった「たくましく生きるための「知恵の習得」」は、これら目的に通ずると思われまじし、高校生の参画も伝える側、伝えられる側双方の「生きる力」醸成の後押しになると思われまじし。教育委員会関係各所連携して、前向きに検討したいと思っております。</p>
②	<p>&lt;基本方針 1 生涯各期における学習の推進&gt;                      白瀬記念館の入館者が年々減少しています。理由は一度見たらもう良い、が大半でしょう。子供たちが興味を示すものも少なすぎます。せつかく極地研と協定を結んでいるのであれば、「北極南極センター」のような展示手法を変える必要もあります。</p>	<p>→ コロナ禍によって令和2、3年度は入館者が大幅に減少（約6千人弱）しましたが、令和4年度はやや回復しております（11月末9,083人）。                      国立極地研究所とは包括協定によって、昭和基地との交信を毎年夏休みに行っており、基地のライブ映像や隕石の展示も行っております。今後はさらなる展示資料の充実に向けて協力を仰ぎたいと考えております。また、</p>

No.	意見の内容	市の考え方
	<p>ともかく子供たちが夢を描いて、白瀬の探検する心を学び目標にチャレンジできるような白瀬南極探検隊記念館であって欲しいものです。</p>	<p>南極探検110周年をむかえる事業として白瀬轟と南極探検隊に関する資料の収集を重点的に行ってまいりましたが、その事業が各隊員の親族やその出身地の博物館等との連携構築にもつながり、手ごたえを感じております。こうした新たな関係人口の創出からも入館者の増加につなげていきたいと考えております。</p>
③	<p>＜基本方針 1 生涯各期における学習の推進＞ 地球温暖化についての講座が一つもありません。象潟公民館で開催されたSDGs講座を受講しましたが、参加者が極端に少なく、市民の関心度の低さが悲しくなりました。 小学生から社会人や企業や各種団体や町内会などのあらゆる会合でも講座を設定してください。</p>	<p>→ 計画書(案)には講座メニューの全てを記載してはおりません。しかしながら、現代に生きる市民としてSDGsに触れ、学び、行動を起こすことはもはや欠かせない作業になりつつあります。「地球温暖化」問題をはじめ、持続可能な社会の在り方を考える機会を公民館講座として設けたいと考えております。</p>
④	<p>＜基本方針 2 読書普及活動の推進＞ 読書感想文募集事業についてご提案いたします。 これまでの同事業の継続は顕著な効果があるとは思いますが、かなり以前から同じ審査員であることが私には気になります。基本方針の実現にふさわしい方々とは思いますが、時代の進歩に合わせて、著述家の登用や若返りで活性化をはかるべきだと考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>→ 当市の読書感想文募集事業の審査員につきましては、いずれの方も専門的知識を有しており、長年にわたり事業にご協力をいただいております。 読書普及活動の推進には多方面の方々や幅広い年代の方々にご協力をいただけるよう取り組んでまいります。</p>

No.	意見の内容	市の考え方
⑤	<p>＜基本方針 3 芸術文化の振興＞</p> <p>合併協議会で定められた第3条に、文化施設の建設があります。スポーツ施設は完成しましたが、市長が提唱した図書館構想はどうなったのでしょうか。最近スポーツがらみの施設は次々と建設しております。スケートボード、アウトドア施設に莫大な予算を投じております。若者向けには大切ですが、カルチャーとしての本格的な施設は、合併協議会の条文から逃れることはできず必ず造られなければなりません。</p> <p>私の構想は、中央図書館としての位置づけで郷土資料館も兼ねることです。今の郷土資料館は狭く、にかほ市旧三町の歴史的文献をすべて集め、更に白瀬記念館の収蔵庫も満杯状態のなかで、NPO法人（設立時無断借用）を居候させており、なお手狭になっております。従って白瀬記念館の資料文献も新施設に移し、古文書などの修復や修理のできる作業室も必要と考えます。生涯学習の複合施設が人の交流の拠点となり過疎対策にもなります。場所は白瀬記念館と隣接したほうが良いと思うが、先にスポーツ施設で場所が削られましたが、まだ可能と考えます。</p>	<p>→ 図書館機能付き総合文化施設につきましては、社会情勢や市の財政状況を見きわめ、老朽化している公共施設や類似施設の統廃合を加味し、にかほ市公共施設等総合管理計画に基づいて再編する計画としております。また、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた新しい生活様式に必要な施設整備を検討し、人口減少によるコミュニティ形成のあり方などの課題を再度、市民の皆様と共有して進めていく必要があると考えております。現時点でこれらの状況に向かうには課題が多く、時間を要する状況ではありますが、現状の施設について利用しやすい環境づくりを進めていくことは必要であると考えます。</p> <p>→ ご意見として承ります。また、白瀬南極探検隊記念館につきましては専門の学芸員がいるため、関係資料が数多く集まり、収蔵庫が手狭になりつつあることは事実です。さらに収蔵資料のデジタル化作業を進めているため、作業スペースも必要ですが、現状ではとくに問題はありません。図書館との連携が必要かどうかについては、貴重な資料の取り扱いとデジタル化の進捗が関連するため、図書館での収蔵がふさわしいのかどうか検討を要します。</p>